

Lynzo

りんぞー

Library for Your Networking ZONE

vol.
10

巻頭
対談

佛教大学図書館の これから

解説
特集
コーナー

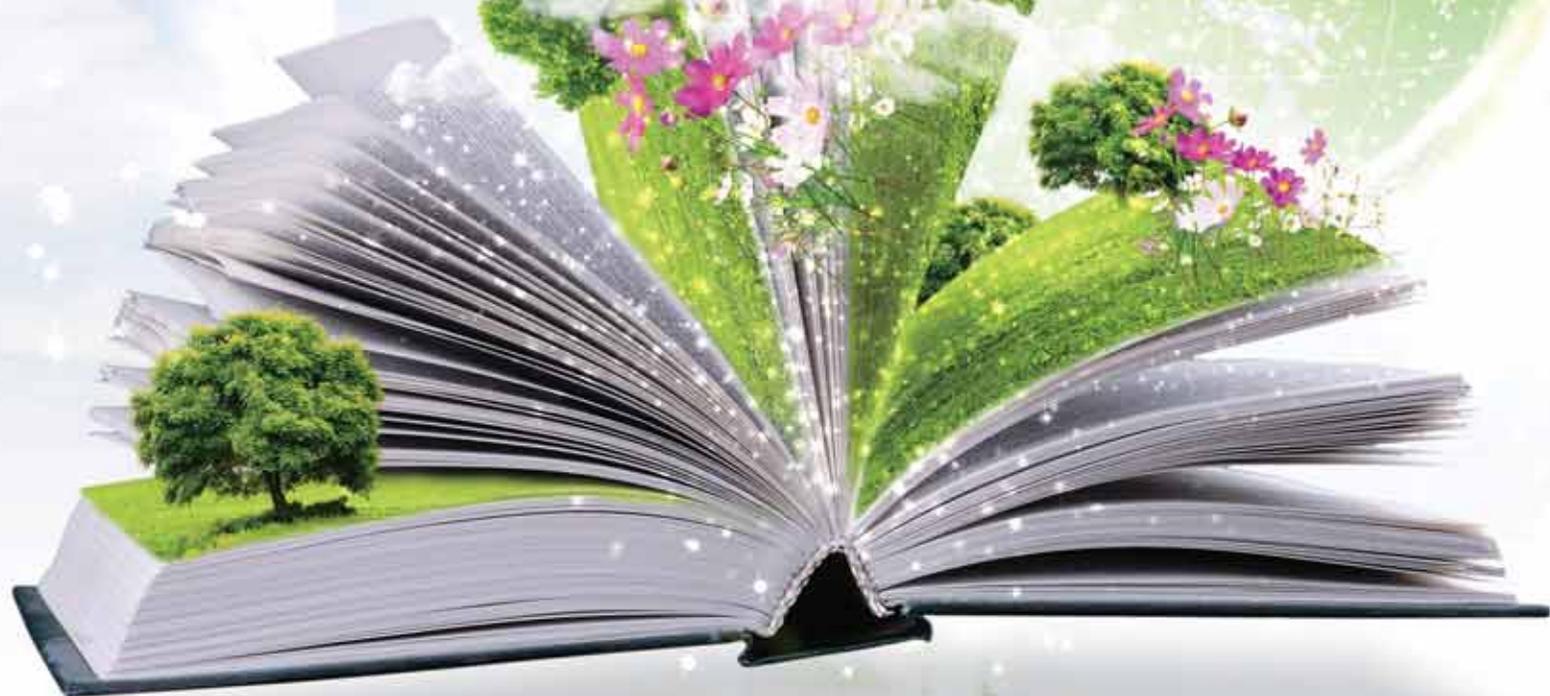
子規と漱石

Lynzo
名画座

『007 ロシアより愛をこめて』

先生が選んだ
この
一冊

『ホーキング、宇宙を語る』 清水陽子先生



佛教大学図書館

〒603-8301 京都市北区紫野北花ノ坊町 96
電話：075-491-2141 (代) FAX：075-493-9042

ISSN 2185-601X

- 1 巻頭特集 対談「佛教大学図書館のこれから」
- 4 解説 特集コーナー「子規と漱石」
- 6 Lynzo名画座 『007 ロシアより愛をこめて』
- 9 先生が選んだこの一冊
『ホーキング、宇宙を語る』 清水陽子先生
- 10 さぶかる！ 『京都人の本音とは？』
- 12 小説を旅する 『ドン・キホーテ』
- 14 四季を読む —湯河原の冬—
- 15 読んだら面白かった！ 『のれんのぞき』
- 16 Pop up lib 特集コーナー
開館カレンダー
- 17

Whisper

本のささやき

まずはじめにブルーがいる。
次にホワイトがいて、それからブラックがいて、
そもそものはじまりの前にはブラウンがいる。

ポール・オースター『幽霊たち』

これほどインパクトのある書き出しは、そうあるものではありません。ある日、若く活気に満ちた探偵ブルーはホワイトという男からブラックという男を見張るよう依頼されます。そしてホワイトから見張り用に部屋まであてがわれます。変化のない毎日を送るブラック。1年近くもブラックを見つめ続けたブルーは、しだいに自分自身がホワイトあるいはブラックから見張られているのではないかと考えるようになっていきます。登場人物以外は色彩が排除され、これといった展開もなく、淡々と物語られます。現実的な手応えがなく、独特の質感に満ちて、まさに“幽霊”です。

ポール・オースター
1947年、ニュージャージー州ニューアークに生まれる。1985年から1986年にかけて刊行された「ニューヨーク三部作」で一躍脚光を浴びる。本書は三部作の二作目。

学生とともにある
大学図書館を目指す

佛教大学図書館のこれから

昨年、創立百周年を迎えた本学。大学とともに歴史を歩んできた図書館もまた、向学心を満たし研究活動を支援する知識の集積所として多くの学生や研究者を支えてきました。時代とともに変わっていく要望にこたえ、これからの大学図書館のあり方を展望すべく、図書館長谷口浩司先生と文学部長中原健二先生にご対談いただきました。

書籍が疎遠になった理由

谷口先生 ● 以前、ゼミの学生に、「自分の部屋のなかで一番数の多いアイテムは何か」と訊ねたのですが、答えはなんだったと思われませんか？
中原先生 ● さあ……、でも本ではなさそうですね(笑)。
谷口先生 ● ええ(笑)。衣類でした。マンガを含めた書籍よりも、衣類

のほうが多かったという事実には愕然としましたね。私が大学に入ったとき、先人の知恵がまつた本が身近になったことが大変嬉しかったことを覚えていますが、最近は、書籍が敬遠されるものになりつつあるんですね。
中原先生 ● 時代が変わってきたのでしよう。私の学生時代と今とではいろいろ違ってきます。一番の違い

はエンターテインメントの質と量。昔、大学生の楽しみといえばマンガやジャンク本を読んだり、あるいは選択肢がありませんでしたが、今では楽しみの選択肢だけでも数えきれませんから。
谷口先生 ● 確かにテレビも一人に1台ある家庭も多くなりまして、DVD等を利用して家でも映画が観られ、ゲームやイン

文学部
中国学科教授
中原健二先生

社会学部
公共政策学科教授
谷口浩司先生

ターネットを利用した交流も手軽にできる世の中ですからね。確かに、そのなかで娯楽として本を選ぶのは難しいかもしれませんね。

中原先生 ● それに最近の学生は真面目なので、高校までに先生から「この本を読みなさい」と小難しい本を読まされて、一生懸命読んだけど内容が十分理解できず、嫌いになるパターンも多いのではないのでしょうか。

谷口先生 ● 確かに興味湧いて本を読むのと、強要されて本を読むのでは最初のモチベーションが違ってきますからね。

中原先生 ● モチベーションといえば、昔は今のように本が溢れておらず、本はすごく高価で大切なものだというイメージがあったので、手にすること自体が、非日常的な

ことで気分が高揚したような気がします。

谷口先生 ● 本や文字が書かれた紙を大切に作る時代でしたね。「本をまたぐようなことをしてはいけない」と親に言われた記憶があります。今のように本があふれる時代でなかったからこそ、本に興味を持てたのかもしれないね。

公共の図書館と 大学図書館の違い

谷口先生 ● 学生から書籍の購入希望が上がってくるのですが、その内容を見てたまに驚きます。ライトノベルやハウツー本などを希望されると、それは大学図書館に収蔵すべきものじゃないので、困ってしまいますね。

中原先生 ● 公共図書館と大学図書館の違いがわかっていないんですよ。

谷口先生 ● 大学図書館は学生の学習を支援し、教員の研究を支える社会人としての教養を高めるためにあります。私も公共図書館を利用しますが、そこを利用するのは暮らしのヒントをくれる本や趣味の本などが目的で、大学図書館に所蔵するような学術書は求めませんから。

中原先生 ● 最近の公共図書館は娯楽の書籍もよく揃えられていますよ。ライトノベルとかハウツー本も置いてあるのを見たことがあります。

谷口先生 ● 公共図書館も書籍の充実を図っているんですね。性質の違う図書館があり、それぞれのTPOによって使いわけることを学生に教えないといけない時代なのかもしれませんね。日本中の書籍すべてが置いてあるのは国立国会図書館くらいで、大学図書館はそれぞれの大学の歴史と個性を尊重して書籍の収集をしているわけですから。

中原先生 ● 娯楽要素の高い本を探すなら公共図書館に行きなさいとか、国立国会図書館の総合目録ネットワークシステムで日本中の書籍の

検索ができるとか、場合によっては取り寄せも可能だとか、具体的な説明が必要なんですよ。

時代とともに 変わっていくもの

中原先生 ● 知識を得る手段として書籍でなくインターネットを利用する学生が多いことに驚きませんか。

谷口先生 ● そうですね。あることを調べなさいと言うと、ウィキペディアを検証もせず、コピーペーストしてくる学生が増えました。インターネットで調べるにしてもせめて2〜3のソースを見比べて、真偽を検証すべきなんですけどね。

中原先生 ● 私は学生に、家で勉強する際は、インターネットで調べたり大学図書館の書籍検索システムを利用したりして事象の概要を把握したうえで、大学に来て書籍を見るよう、指導しています。デジタルは誰でもが勝手に加工できますが、印刷した文字では改変が難しいので、書かれていることの信頼性が高いこともあわせて教えています。

谷口先生 ● 電子ブックや検索システムの充実によって、読書量や知識量に関係なく、ある言葉や事象の



資料を簡単に見つけられるようになったがために、誤認識も多くなりますからね。最終的には紙媒体である原典に当たって、自分の目で前後の内容を確認し、真偽の検証をする作業が不可欠ですね。

中原先生 ● 書籍で調べると、デジタルで調べるよりも多くの知識が手に入る、という効果もありますよね。ある言葉を調べるために辞書を使えば、たどりつくまでに違う言葉が必ず目に入ります。また、資料を図書館で探すと、同じ本棚にその内容に近い書籍が並んでいるはず。そういう不可抗力的に入る知識をデジタルで得ることは難しいですよ。

谷口先生 ● デジタルにはデジタルの、アナログにはアナログの、それぞれ良さがあることを理解したうえで、活用してもらいたいですね。

学生に親しまれる 図書館であるために

谷口先生 ● 館長に兼任して一番力を入れてきたのは、学生にとって魅力的な図書館にすることです。サンサーラを移動させて閲覧学習スペースを作ったり、入口の付近に「新着



づらいイメージはありますよね。

谷口先生 ● できれば、友達と一緒に図書館に来てお茶でも飲みながら本を片手に語りあうスペースが作れたらなあ……とは思っているんですけどね。もちろん静かに使いたい人の邪魔にならないよう配慮も必要なので、実現にはもう少しかかりそうです。

中原先生 ● そんなスペースができればステキですね。学生もちょっとした暇ができたら気軽に図書館を利用するようになるといいですね。この機会なので、ひとつ、図書館にリクエストしたいことがあるんです。学部学科ごとに図書館との付き合い方は違ってくると思うんです。同じ文学部でも日本文学科と中国学科では、図書館を利用する学年も違うし資料の使い方も違います。だから、

利用ガイダンスを入学直後ではなく、学部ごとに必要な時機に設定してもらえたらありがたいなあ……と。

谷口先生 ● 学生が必要な時に利用ガイダンスをしたほうが、真剣に聞いてもらえますね。ぜひ、検討させていただきます。

中原先生 ● よろしくお願いします。ただだけデジタルが発達しようが、最後には紙。原典に立ち返ることは研究者として必要不可欠なことです。そのためにも、書籍を収蔵すると同時に、学生が使いやすく、立ち入りやすい図書館にしてもらえたら嬉しいです。

谷口先生 ● 学生たちの落ち着ける場として親しまれつつ、本学の個性を打ち出して、これからの教育・研究を支える附置機関でありつづけたいと思います。

子規と漱石

図書館1階カウンター横に設けられた「特設コーナー」では毎月テーマを設定し、そのテーマに関連する図書を展示・貸出しています。
2月のテーマは「子規と漱石」。当館が所蔵している明治文学の大家・正岡子規と夏目漱石の書籍を展示する予定です。そこで今回は、文学部日本文学学科教授坪内稔典先生に二人の人物像や関係性について話をうかがいました。

——正岡子規ってどんな人なんでしょうか？

正岡子規は慶応三年（1867）に生まれました。この年には子規をはじめ、尾崎紅葉・斎藤緑雨・夏目漱石・幸田露伴・宮武外骨といった日本の近代化のなかで新しい文学のあり方を模索し、大成した面々が誕生しています。彼らは、「自分のする仕事は必ず明治の新しい日本の礎になる」と希望を胸に困難に立ち向かっていきました。

子規もその後の文学界になくてはならない人物です。彼は、俳句をはじめ短歌、新体詩、小説、評論、随筆など多方面にわたって創作活動を行い、日本の近代文学に多大な影響を及ぼした明治時代を代表する文学者です。みなさんも彼の作った俳句「柿くへば鐘が鳴るなり 法隆寺」を一

度は聞いたことがあるのではないのでしょうか？

ただ、子規といえば、結核で病床にいた印象が強いと思います。病人ならではのわがままさと気難しさで周りの人を困らせたような……。しかし実際は要領がよく社交的で好奇心旺盛な行動派、そしてちよつと皮肉屋なところのある誰からも好かれる人物でした。子規のエピソードを少し紹介しましょう。子規は22歳で咯血し当時不治の病とされた結核だと診断されると、結核の象徴とされるホトトギスになぞらえ、まるで自分は肺結核だと吹聴するように「子規（ホトトギスの当て字）」と名前を変えます。また、25歳の時には夏目漱石ら友人が止めるのも聞かず、帝国大学（今の東京大学）を中退して新聞記者となり、病身でありながら「今しかできない」と日清戦争に従軍する

——子規と漱石にどんな接点があったのでしょうか？

子規と漱石は旧制第一高等学校・校現在の東京大学教養学部及び、千葉大学医学部、同薬学部の前身の同級生でした。漱石と同様に子規も当時落語好きだったようで落

語で意気投合したとか、子規の手がけた漢詩や俳句などの文集「七草集」の巻末に漱石が漢文で批評を書いたことから交流が始まったとかいわれています。

漱石は繊細で一人でコツコツ努力する努力家ですが、何かあれば家に籠ってしまいう内向的なタイプだったので、社会的でみんなとワイワイするのが好きな子規とは正反対の性格だったようです。しかし、この違いが互いを刺激し、二人の仲を深めたのかもしれない。漱石から見ると、何でも要領よくこなす、病気すら前向きに捉えて楽しんでいっている相手として憧れ、一目置いていました。一方、子規はなんでも真正面から物事を受け止める漱石の真面目さからかいないながらも、知識量や努力する姿勢、精神力など自分が敵わない畏友だと認めていました。

多くの著書を残す漱石ですが、実は子規がいなければ文学の世界に入っていなかったかもしれない。もともと研究者であり、英語の教師をしていた漱石に文章の楽しさを教えたのは子規でした。明治28年、子規の故郷・松山の中学

校に勤めていた漱石の下宿に、子規が病氣療養のため50日間ほど滞在したことがあります。このとき、子規に倣って漱石も俳句を作り始め、作る楽しさを見出しました。こうした2人の親交は、漱石の代表作「吾輩は猫である」中編の序文に子規との思い出が綴られていることや、「亡くなった子規の墓前にこの本を献じる」と締められていることから窺われます。

——学生の読書離れが叫ばれる今日ですが、坪内先生にとって読書の魅力はなんなのでしょうか？

明治時代という近代の草創期に生きた彼らは文豪と呼ばれます。そんな彼らにも、私たちと変わらず、夢や野心を持ち、進学や就職に悩み、自分の生き方を模索する時期がありました。

漱石の著書「三四郎」のなかで主人公の三四郎が友人の與次郎に誘われて、生まれて初めて図書館に行くくだりを紹介しましょう。

図書館の一階から三階まで一生かかっても到底読み尽くせないほどの本で溢れ、多くの人がいるのに静まり返っていることに感心した三四郎をさらに驚かせたのは、誰も読んで

いないだろうと推測した難解な英語の本を開けてみても、誰かが読んだ形跡があることでした。それで学問の世界が「静かで深いもの」だと気づき、それから本を毎日8〜9冊借りるようになりますが、難しすぎて読めずに返すこともしばしばだったとあります。

図書館に行くことが一つのステータスで、読書は背伸びをするものだったのはこの頃から変わらないうです。こんな一節を読むと敬遠していた書籍も自分と重なる部分が見えて興味湧きませんか。自分が無理せず理解できる本を読むのは読書ではなく、わからないものを背伸びして読むことこそが読書だと思っています。たとえば森鷗外の本を小脇に抱えて通学するだけで、周りの人からは「森鷗外を読んでいるなんてすごい」と思われることでしょう。それが、背伸びのキッカケでもいいと思います。ファッションで図書館に入って小難しい本を借り、少しペラペラめくる……。そういうなかから、自分と合う作家や本が見つかるかもしれません。本を通して未知の世界を知る楽しさ、それが読書の醍醐味ですよ。



つぼうちとしのり 坪内 稔典 [文学部 日本文学教授]

1944年、愛媛県生まれ。立命館大学文学部卒業、同大学院文学研究科修士課程修了。専門は近代詩歌史、俳諧・俳句、夏目漱石とその周辺の人々。

Lynzo 名画座



FROM RUSSIA WITH LOVE
ロシアより愛をこめて

魚に赤ワインか・・・うかつだった。

酒に詳しくても、貴様の負けさ。どうだ 大将？
偉大なジェームズ・ボンドが愚かな自分に気づいたか、
おれたちはプロだ。

FROM RUSSIA WITH LOVE (C) 1963 United Artists Corporation and Danjaq, LLC. All Rights Reserved.

ヴェニスでのチェス世界選手権で勝者となったクロンステイン(ヴラデック・シェイバル)の正体は、犯罪組織スペクターの作戦部長。チェスの競技中に首領のプロフェルドに呼び出される。そこに同席したのは、かつてソ連(現在のロシア連邦)情報部の主任であったクレック大佐(ロッセ・レーニャ)。クロンステインは、彼女にイスタンブールのソ連領事館から、ソ連の最新鋭の暗号解読機を盗み出す計画を説明する。

その計画とは、英ソ両勢力の対立を利用して、暗号解読機を入手することと英国情報部を欺くこと、そして計画の裏側には過去の因縁から英国情報部に復讐しようという陰謀があった。すでにスペクターの一員となっているクレック大佐は、計画遂行のためにスペクターの暗殺者養成所から選んだグラント(ロバート・シヨ)をイスタンブールに向かわせる。イスタンブールに着いたクレックは、ソ連領事館の女性部員タチアナ・ロマノヴァ(ダニエラ・ビアンキ)を呼び出し、極秘任務と騙して、彼女に英国情報部員と接触するよう指示した。

一方英国では、恋人と休暇を楽しんでいた情報部員ジェームズ・ボンド(シヨン・コネリー)が、上司のM(バーナード・リー)に本部に呼び戻され、トルコ支局長のケリム・ベイ(ペドロ・アルメンダリス)からの報告を受ける。その内容とは、ソ連領事館の女性部員タチアナがソ連からの亡命を求め、その見返りに暗号解読機を盗み出す約束をしたこと、そして亡命する際に、



ボンドを護衛にすることを条件にしていることだった。Mはこの情報はソ連の罠ではないかと疑うが、ボンドは暗号解読機を手に入れる機会を見逃すことはないといって、トルコに向かう。イスタンブールに着いた彼をソ連に協力するブルガリア人の車が、早速尾行してくるのだった。ボンドはトルコ支局のあるグランバザールへ向かいケリム・ベイと会い、彼から罠の匂いがすると忠告を受ける。その後、ホテルへ向かうボンドを尾行する車には、運転手を拉致し代わって運転するグラントの姿があった。彼は英国の仕業と思わせるため、ソ連領事館の前に運転手の死体を載せた車を乗り捨て、待っていたクレック大佐とともにその場を去る。翌日ケリム・ベイの事務所に仕掛けられた爆弾が爆発し、ベイは犯人を調べるためにボンドを連れて、地下水路に仕掛けた潜望鏡からソ連領事館の様子を探るのだった。そこで暗殺者クリレンクの姿を見つけ、爆弾を仕掛けた犯人が彼であることを知る。

ボンドとケリム・ベイは、クリレンクの目をくらますために、ジプシーの村に潜むことにするが、これに気づいたクリレンクが手下を率いて、村を襲撃する。その乱闘の中でボンドを撃とうとする男を、隠れていたグラントが射殺する。そして、その場から逃げ出したクリレンクの隠れ家突きとめた二人は、彼の狙撃に成功する。

ホテルに戻ったボンドは、部屋の中に気配を感じ、ベランダ越しにベッドルームへ入ってい

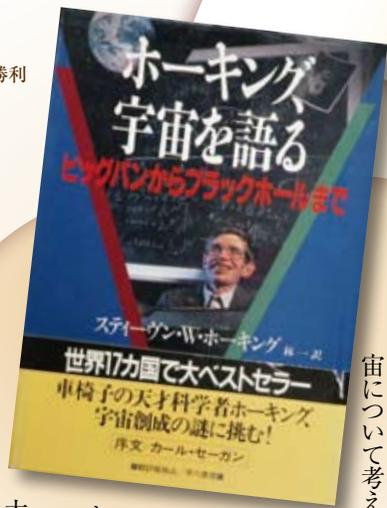
く。そこにはタチアナが待っていたのだ……。果たして、ボンドは彼女から暗号解読機を手に入れることができるのか。グラントの謎の動きは、そしてスペクターの陰謀を暴くことができるのか。

原作はイアン・フレミングの『ロシアから愛をこめて』（一九五七年）で、このシリーズの第五作です。監督は『暗くなるまで待って』（一九六七年）、『レッド・サン』（一九七一年）、『華麗なる相続人』（一九七九年）のテレンス・ヤング。脚本は007シリーズを多く手掛けたリチャード・メイボウムとジョアンナ・ハーウッド。音楽は『オリバー』（一九六八年）、『黒馬物語』（一九七〇年）のライオネル・バート。主題歌を歌っているのはマット・モンローで、『さらばベルリンの灯』、『野生のエルザ』（いずれも一九六六年）でも主題歌を歌っています。

主人公のボンドを演じているのは、この役で一躍スターになったショーン・コネリー（『風とライオン』、『薔薇の名前』）。タチアナ役を演じたダニエラ・ピアンキは一九六八年に惜しくも映画界を引退しています。暗殺者グラントを演じたのは、ロバート・ショー（『ステイング』、『ジョーズ』）は、この個性あふれる役で一躍脚光を浴びることとなりました。

今回のとっておきは、昨年映画化五十周年を迎えた007シリーズについてです。一九六二年の『ドクター・ノオ』から二〇一二年の『スカイ・フォール』まで二十三作品が製作され、そ

先生が選んだ
この一冊



『ホーキング、宇宙を語る』

みなさんもこれまでに一度は宇宙について考えたことがあるのではないのでしょうか？

私もいつの頃からか宇宙についての不思議やその仕組みについて知りたいと思ってきました。

私が高校生から大学生になる頃、ホーキング博士はこの宇宙への解明を語る第一人者でした。

しかし、それまでの論文や理論はとても理解できるものではなく、どちらかというと太刀打ちできない自分を余計に苛立たせるような感じでした。

ですから、この本が出版された時にはとても興奮したのを覚えています。

前書きに数式を1つしかいれない、と書かれています。数式は物理の基礎ですし、物理学者

このページで紹介した映画『ロシアより愛をこめて』と原作『ロシアから愛をこめて』は、図書館に所蔵しています。また、映画は二十世紀フォックスホームエンターテイメントジャパン株式会社の保田道子氏字幕翻訳を使用しました。 ※なお、このページで使用した写真はモノクロですが、映画はカラーです。

作品名：ロシアより愛をこめて（デジタルリマスター・バージョン）ベスト・ヒット
DVD 発売元：20世紀フォックス ホームエンターテイメント ジャパン
価格：¥1,490（税込）
DVD 発売中
FROM RUSSIA WITH LOVE (C) 1963 United Artists Corporation and Danjaq, LLC. All Rights Reserved. 007 Gun Logo (C) 1962-2012 Danjaq, LLC and United Artists Corporation. JAMES BOND, 007, 007 Gun Logo and all other James Bond related trademarks TM Danjaq, LLC. All Rights Reserved. Package Design (C) 2012 Metro-Goldwyn-Mayer Studios Inc. All Rights Reserved. Distributed by Twentieth Century Fox Home Entertainment LLC. TWENTIETH CENTURY FOX, FOX and associated logos are trademarks of Twentieth Century Fox Film Corporation and its related entities.



それぞれの時代の世界情勢や最新のテクノロジーをいち早く取り入れているのが、このシリーズの大きな特徴の一つとわかっていいでしょう。

世界を舞台に活躍するボンドには、ショーン・コネリーのほか、ジョージ・レイゼンビー、ロジャー・ムーア、ティモシー・ダルトン、ピアース・ブロスナン、そして現在のダニエル・クレイクまで六人が演じています。しかし、原作の第一作である『カジノ・ロワイヤル』（一九五三年）が、翌年アメリカのCBSでテレビ化され、バリー・ネルソンが演じたことや、同じ原作を一九六七年にパロディ映画化した作品で、デビッド・ニーヴンが演じていたことはあまり知られていません。

主題歌も、シャーリー・バッシュ、トム・ジョーンズ、ポール・マッカートニー、カーリー・西蒙、シーナ・イーストン、リタ・クーリッジ、ティナ・ターナー、マドンナなど、その時代を代表する一流のアーティストたちが歌っていることも見逃せません。

また、原作者であるイアン・フレミングが一九六四年に亡くなり、その作品は長・短編合わせて十四冊しかなかったのですが、映画は独自の脚本で新しい作品が次々に生み出されています。小説もイアン・フレミング財団によって依頼された作家たち、ジョン・ガードナー、レイモンド・ペンソン、セバスチャン・フォークス、ジェフリー・ディーヴァーと現在まで書き継がれ、一九五三年に誕生したヒーローも今年で六十周年目を迎えます。

の武器ともいえるものです。ではどのようにして物理学者であるホーキング博士が宇宙を語るのだろう、とワクワクしながら読みました。

この本にはアリストテレス、コペルニクス、ガリレオといった古代の天文学者、ニュートンやアインシュタインといった近代の物理学者も出てきます。そして神も出てきます。彼らがどのように宇宙を理解しようとしていたのか、この本ではこれまでのそれぞれの理論とともに、その背景や人間像も描かれています。宇宙全体のもっとも大きな世界から、素粒子といったとても小さな世界まで、壮大な概念が解説されています。

ホーキング博士は平易な言葉、身近な事例で解説しているのですが、内容はやはり少し難しいものでした。私は一度では理解できず、何度も読み返し、なんとなくそのなにかあと言っているやっとなか。謎が謎を呼ぶ、そんな感じです。

この本から私が出たものは宇宙へのさらなる憧れとその実態を知りたいというより強い思いでした。ですが、残念ながら私は物理学者にはなり（なれ？）ませんでした。これは好きなものが理解できない、というジレンマにそれ以上落ち込みたくなかったからかもしれません。

星と星の間にある暗い空間には一体何があるのでしょうかね。

清水 陽子先生
（社会学部公共政策学科 講師）

東京都生まれ。奈良女子大学大学院人間文化研究科修了。博士（学術）。専門は市街地の土地利用に関する研究、まちづくりと地域コミュニティに関する研究。



著者：スティーブン・ホーキング（林一 訳）

序	8 宇宙の起源と運命
1 私たちの宇宙像	9 時間の矢
2 空間と時間	10 物理学の統合
3 膨張する宇宙	11 結論 —— 人間の理性の勝利
4 不確定性原理	
5 素粒子と自然界の力	
6 ブラックホール	
7 ブラックホールはそれほど黒くない	

発行：早川書房

最近流行している本や作家、印刷メディアや表現手法。いろいろありすぎて「知りたいけど、調べてもよくわからない!!」ってことがあるよね？ 私たち「さぶかる」では、そんな好奇心や疑問を解消するべく日夜活動してま～す。

サツカルチャー de 読み解こう部

さぶかる!

京都人の本音とは？

しっかりしてはるなあ

ありがとう!

ほめられていないと思うよ…

●●●●●
「京ことば」って何？

京都で使われている方言「京ことば」。「居てはるわ」「お越しやす」「美味しおす」。こんなふうな、語尾に付けるはる「やす」「おす」などはみなさんも知っているのではないのでしょうか。実はこれらは、幕末以降に普及した比較的新しい京ことばで、それとは別に京都に都があつた頃に使われていた伝統的な京ことばが数多くあります。そのため、京都に暮らす人でも、本来の意味合いを知らずに耳にしたり使つたりするケースが少なくないようです。京都の人々でさえも理解の難しい京ことば。今回紹介する『京のわる口』では悪口として登場する京ことばをわかりやすく解説し、さらにそこに詰まっている京都人の知恵や精神を説き明かしています。

●●●●●
京ことばが普及した
歴史的背景

●●●●●
千年以上にもわたって都として栄えた京都の人々は、政治的にも

●●●●●
三者の同意がなければ、自分の意見や主張を通しにくい京都ならではの風潮が見え隠れします。

●●●●●
四六時中、人より上か下か意識しながら言葉が発してきた京都人。言葉の遣い方ひとつが、勝たないまでも負けないで生き抜くための武器だった、そう説明されると、京ことばに毒があることにも、表裏があることにも納得がいきませんか。京ことばの本当の意味を理解し、京ことばで話す人の心の中にいる狙いを見抜くことができれば、面白いかもしれません。著者の『京のわる口』は貴重な文化遺産の一つだという主張はともかくとして、これからも京ことばにはご用心！

●●●●●
この「位」を気にしながら生きていました。そんな「位取り」の中で成熟してきた、「京のわる口」とはどのようなものなのでしょうか。

●●●●●
相手の言ったことに不同意を伝えるとき、「それは違う」とストレートには言わないのが京都人。ではどうするか、いくつか例をあげてみましょう。

●●●●●
たとえば「そやなあ…」「まあ…」「そやけどオ…」と煮え切らない相槌をつちます。少なくとも同意はしていないことを相手に伝えるのです。そして同時に、相手の反応を見ながら、次の展開を考えています。批判や異論を持つていることを強く意思表示するならこう言います。「そんなことして…、あるやろか」。強い非難であるはずですが、文法的に推量にあたる「やろか」を付けるところが、いかにも京都人です。自分にとって有利な結果に運びたいと思つたときには、そこには実際には居ないが居ると想定した第三者へ話しかけるように、こう言います。「そんなことして…、あるかいな」もし第三者が聞いていたら自分に同意するだろうという期待をこめて「あるかいな」あるかなあ？」と遠回しに相手を否定しているのです。この背後には、第

●●●●●
たむめめ事を起こすようであれば京都という町ではとてもやっつけていけなくなるからです。

●●●●●
それではおとなしくしていればいいのかという、そつではありません。『紫式部日記』をひも解いて「位取り」の例に清少納言について書かれている内容を見てみると、京ことばに直せば「賢くぶらほる」「書き散らかしたはる」「など」という表現で陰口が綴られています。「はる」は「なさる」が変形した尊敬語ですが、実は敬意度は低いのです。つまり、最低限の敬意を払つというルールは守りつつ敵しい批評を言つ、これは自分をよく見せておきながら、相手を低くすることができる物言いでです。世間付き合いからはじき出されないうつ、自分の「位」や「品」を守りながらライバルを批評する、それもまた複雑な社会を生き抜く上で有効な技だったのでしょう。

●●●●●
『京のわる口』

●●●●●
言葉のやり取りで「位取り」をしていたのは、公家だけではありません。庶民もまた、年齢、財産、学歴、家柄など、何かにつけて互

「しっかりしてはる」って、「ちゃっかりしてる」って意味だったんだ…

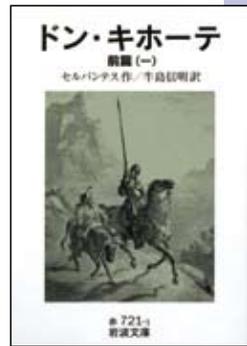


●●●●●
自慢はしても、真つ向から攻めて誰かを傷つけるような「位取り」はしないところです。たび



『京のわる口』
(平凡社ライブラリー)
平凡社、2012/10/10
泰恒平 (著)

書物の魅力のひとつは、古今東西、さまざまな人と出会ったり、あるいは知らない時代や、行ったこともない世界に行くことができるのではないのでしょうか。このコーナーでは、小説の舞台になった場所を訪れ、主人公たちがたどった道を、みなさんと一緒に旅します。



『ドン・キホーテ』 岩波文庫 / (2001/1/16)

1605年、『ドン・キホーテ』はマドリッドで刊行されました。出版後すぐに大評判となり同年中に6版を重ねるほど人気を博しました。1614年にアベリャネダなる人物が贋の続編を出版したのを受け、翌年にセルバンテスが正式な続編を出版。当時流行の騎士道小説を風刺しつつ、人間が持つ悲喜劇性の両面を融合した内容となっており、近代小説のさきがけと評価されています。また、世界中で聖書の次に多く出版されている、真正正銘のベストセラー小説・ロングセラー小説でもあります。

前編のあらすじ スペインのラマンチャのビジャヌエバ・デ・ロス・インファンテス村に住むアロンソ・キハーンは、50歳にもなつて騎士道物語を読みふけり、やがて正気を失い、自分が中世にいた遍歴の騎士だと信じて世の悪を懲らしめるため村を出る決心をします。愛を捧げる美姫ドゥルシネア・デル・トボソを心の中で仕立て、ドン・キホーテ・デ・ラ・マンチャと名乗り、甲冑に身を固めます。そして百姓サンチョ・パンサを従え、ロシナンテと名づけた痩せ馬とともに、冒険の旅に出発しました。

宿屋があるプエルト・ラピセを目指す途中、カンポ・デ・クリプターナの野原に建つ30〜40の風車に出くわしたドン・キホーテは風車を巨人だと言い、サンチョが止めるのも聞かず槍を手に馬を駆つて、風車に向かつて突進。しかし風車の翼に馬ともども持ち上げられ、反対側に放り出されて全身を強く打って倒れ込んでしまいます。それでも負けたことは認めず、すべて邪悪な魔法使いのせいになります。その後、プエルト・ラピセの街に到着。宿屋を城だと思い込んだドン・キホーテは、夜中に城の姫が自分に愛を語りに来ると妄想を始めます。その勘違いから宿の主人や他の客を巻き込んだ殴り合いに発展してしまいます。

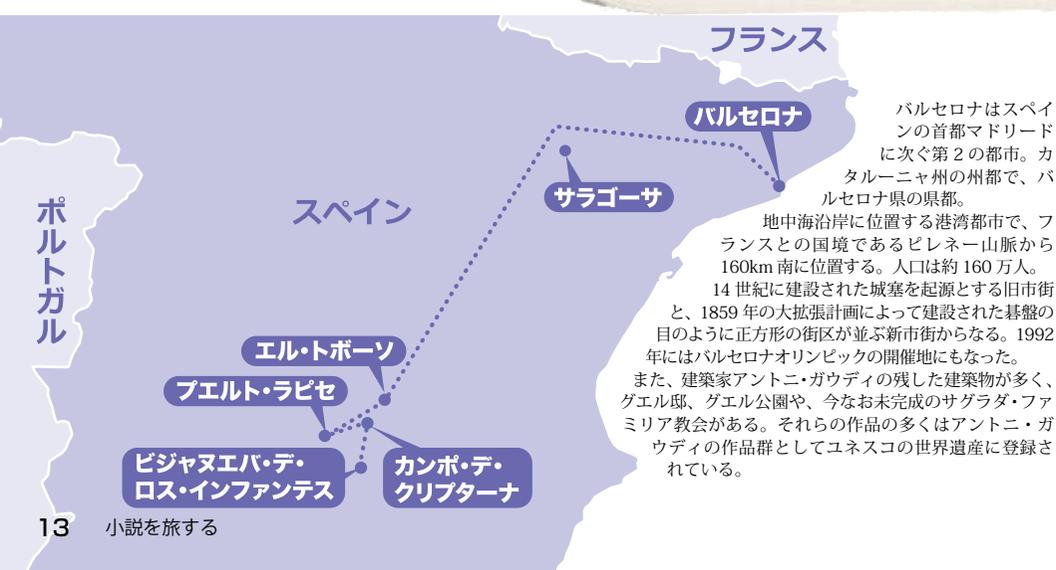
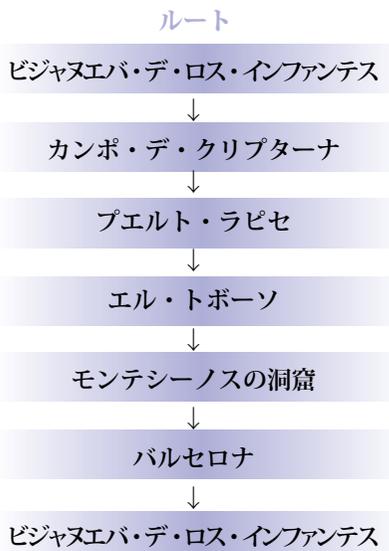
後編のあらすじ 次に訪れたトボソ村では「ドゥルシネア姫を連れてくるまで帰ってくるな」とサンチョに指示します。困ったサンチョは道を行く3人の百姓女を連れてきて、魔法使いに姿を変えられたドゥルシ

ネア姫とその侍女だとドン・キホーテを言いくるめます。それを信じたドン・キホーテは、百姓女に愛を語ろうとしますが無視され、姫の魔法を解く方法を探そうと心に誓います。続いて出会ったドン・ディエゴ・デ・ミランダという紳士は、ドン・キホーテの博識さと論理的な見解に感心し、自宅に招きます。そして、「モンテシーノスの洞穴に冒険に行く」と言うドン・キホーテの言葉に感服し、親戚の者に洞穴まで案内させます。洞穴では伝説の魔法使いに出会うという不思議な体験をしました。旅を続けるドン・キホーテは鷹狩りをしている公爵夫人と出会います。後編においてはドン・キホーテの冒険が本となって出回っているという設定のため、公爵夫人もドン・キホーテのことを読み知っていたので、城に招きドン・キホーテをからかいます。魔術師に扮させた家来に「姫を元に戻すためにはサンチョが自分の尻を3,300回鞭打つしかない」と告げさせます。そして、島の領主になることを条件に、鞭打ちをすることをサンチョに承諾させます。こうして、いったんは島の領主となったサンチョですが、島でからかわれて酷い目にあい、ドン・キホーテのもとに帰り、再び一緒に旅を続けました。途中で入った食堂で贋作の『ドン・キホーテ続編』が出ていることを聞き憤慨したドン・キホーテは、続編に書かれているサラホーサには向かわずバルセロナに向かいます。そこで『銀月の騎士』と名乗る人物から「自分の姫の方がドゥルシネア姫より美しい」と数々の挑発を受け、やがて決闘することに。「負ければ郷里に帰り、騎士としての生活を諦める」との条件を提示されました。ドン・キホーテはその条件をのみ決闘に挑みますが、敗北。約束通り帰郷しました。

郷里に帰るとすぐ体調を崩し6日間苦しみますが、次に目覚めたときには騎士妄想から解放されたれ、元のアロンソ・キハーンに戻ります。それまでの自分の馬鹿げた行動を反省し、迷惑をかけた人々に謝罪し、財産分与の遺書をしたため、家族、友人、そしてサンチョにみとられて波乱の人生を終えました。



マドリッドの南方の広大な赤茶けた大地ラマンチャは、アラビア語で Manxa (乾いた土地) に由来する。ゆるやかな起伏のある地形に、見渡す限りの麦畑、開花期には紫に染まるサフラン畑、ぶどう畑やオリーブ畑、そして、乾燥した草原が広がる。この乾いた風景に突然大きな風車が現れるのが、カンポ・デ・クリプターナ。風車を巨人と間違えて戦いを挑むドン・キホーテの話の舞台として有名なこの村は、いくつかの風車が立ち並ぶ丘と、ひと固まりの小さな白い村だけの素朴な絵画のようなところである。



ミゲル・デ・セルバンテス (1547〜1616年)

スペインの作家。イダルゴ(下級貴族)の次男としてマドリッド近郊のアルカラ・デ・エナレスで生まれる。少年時代から無類の読書好きだったが、外科医であった父の仕事で、各地を転々としたため正規の学校教育はほとんど受けられず、兵士となる。イタリヤやアフリカで戦い、1571年には、史上有名なレバントの海戦に参加し、左腕を負傷した。その後、海賊に捕らえられたり、反乱の首謀者となったりしつつも帰国。帰国後は、海軍の食糧徴発係や貧民からの滞納税金徴収などの不名誉な仕事をしつつ家族を養い、1597年、50歳で仕事上のいざこざで投獄される。釈放後の1605年に『ドン・キホーテ』を、1615年に『ドン・キホーテ 続編』を出版。遺作は『ペルシールレスとシヒスムンダの苦難』。





冬の寒さから逃れて、東京駅から「踊り子号」に乗り、真鶴を過ぎて湯河原の駅に着いたのは、午後一時を過ぎていました。駅前から路線バスで奥湯河原まで、千歳川の流れに沿って登っていきます。温泉といえば箱根や熱海が有名ですが、静かな時間と場所を求めて湯河原を訪れました。奥湯河原には、多くの文化人たちが泊った旅館もあります。

小説家田山花袋は大正七年（一九一八）に出版した『温泉めぐり』で、湯河原のことを

湯河原の方へ行くには、鞍懸の裾は通って行かないが、熱海に行く方の路では、そこから美しい富士——他に多くはない美しい横面の富士を眺めることが出来た。（中略）
鞍懸の裾を通らずに、湯河原の方へ下りて行く路は、かなり行ったところまで、暗い林に深い蒼原が生い茂っていて、いかにも深山らしい感じがする。山の谷に深く落ちていく形も怪しい。しかしそこを通り越して、晴れやかに前に海を見渡すあたりに来ると、感じがぐっと明るくなって来る。小さな溪流が深く底に鳴っている音がきこえて、山村らしい板葺の人家が一つ一つあらわれ出して来た。

と記しています。

それから、およそ二世紀を経た現在でも、ここに逗留する人々は、源泉から引いた温泉にゆったりと身体を癒し、相模湾の海の幸や地元野菜を味わい、東の間の休日を楽しみます。

翌朝、食事をすませて何げなく窓の外を見ると、木々の枝を野猿が渡っていく姿をみかけました。彼らにもこの寒い冬を越してい



と書き残しており、この風景を余すことなく伝えていきます。やはり、富士山は日本人にとっては、大切な心象風景といえます。

*このページで紹介した本
田山花袋著『温泉めぐり』（岩波文庫）
徳富蘆花著『自然と人生』（岩波文庫）

四季を読む 湯河原の冬

くためのかくれ湯が、どこかにあるのかもしれない。温泉に浸かっている猿たちの姿を想いながら、宿を後にしました。湯河原からの帰途は、少しローカル線の気分を味わってみたくなり、熱海駅では下車せずに、三島駅まで沿線の風景を眺めながら東海道本線を各駅停車で行くことにしました。

そして、新幹線のプラットホームに上がった瞬間、そこに現れた富士山の雄大な姿に思わず息をのみました。雲一つない蒼天を背景とした、山頂の雪の白さが一層映えている美しさに、しばらく見とれてしまいました。走っている新幹線の窓越しに、幾たびか眺めた富士山とは異なっており、冷たい張りつめた空気の中に立つ姿は、心に残る一幅の絵画のようでした。明治三十一年（一九一八）一月、徳富蘆花が「此頃の富士の曙」に、

心あらん人に見せたまきは此頃の富士の曙。
午前六時過、試みに返子の濱に立つて望め。眼前には水蒸氣渦ましく相模灘を見む。灘の果には、水平線に沿ふてほの闇き藍色を見む。若し其北端に同じ藍色の富士を見ずば、諸君恐らくは足柄箱根、伊豆の連山の其藍色一抹の中に潜むを知らざる可し。海も山も未だ睡れるなり。
唯一抹、薔薇色の光あり。富士の巔を距る弓杖許りにして、横に棚引く。寒を忍びて暫く立ちて見よ。諸君は其薔薇色の光の一秒々々富士の巔に向つて這ひ下るを認む可し。丈、五尺、三尺、尺、而してす。富士は今睡より醒めんとすなり。
今醒めぬ。見よ、嶺の東の一角、薔薇色になりしを。



小堀杏奴著 『のれんのぞき』

この本との出会いは比較的新しい。出版されたのが平成二十二年九月だから、つい最近のことだ。しかし、原稿が雑誌『酒』に掲載されたのは、昭和三十四年からのので、執筆されてから五十年以上になる。著者の小堀杏奴（こぼり あんぬ）は、森鷗外の次女で、エッセイストでもあり、小説家でもある。

この本には、表題の「のれんのぞき」をはじめ「お江戸は遠くなりけり」「ハイカラ風俗史」「江戸の古寺」の題で、三十六篇のエッセイが収録されている。

山の手線、日暮里の駅から程近く、羽二重団子で名高いお店の暖簾をくぐると、人々はたちまち、明治の、あるいは大正時代の懐しい追憶がよみがえるのを感じる。造作に多少の変化はあったにしても、一種の背景をなす、黒ずんで、古びた、昔ながらの大戸（揚げ戸）や上り框に近く、柱にかかったボンボン時計を見る。彫刻した木の飾がつき、ガラスの蓋には、金色の線で、花模様様が施されている箱形の大きな時計は、昔から変わらぬ時を刻んでいるのであろう。



これは「のれんのぞき」のなかの一編「芋坂の羽二重団子」の冒頭の一節で、老舗の情景が目の前にうかんでくるようだ。

テレビ番組やタウン情報誌が「どこぞの名店」と言い出したのは、いつの頃からだろう。自分自身は美食家ではないし、ブランド品のコレクターでもないの、そういった有名な場所へは好んで出かけたことはないが、耳学問（いや眼学問）のおかげで、否応なしに知識だけが自分のなかに蓄積されていく。それが、映像や写真で紹介されるために、店の名前や佇まいまで以前から知っているように勘違いしてしまふ。

小堀杏奴の文章は、メディアによって与えられた情報でイメージが膨らむのとは異なっており、忘れていた記憶が呼び戻され、自分がかつて見たことのある原風景を思い出させてくれる。そういう意味で、この『のれんのぞき』のなかのエッセイは、どれも自分が幼かった頃の雰囲気、ともすれば匂いさえも甦らせる。

「ハイカラ風俗史」のなかの二編「長崎かすていら」の冒頭もまた、そういった味わいを伝えてくれる。長崎のカステラ、これはひら仮名でかすていらとでもしないと味が出ない。いかに南蛮渡来といった感じで、明治四十二年、西年生れの私がかつて頃という大正初期には、御使い物としてやりとりするのは大抵このかすていらに限られ、なんでもボール紙に、木目のある薄青い経木を貼りつけてこしらえたような大きな箱に入っていたと

思う。端っこ少し焦げ目のついたところが私がかんばしくって好きだったし、本場ものとなると、白っぽく乾いてスポンジみたいにかスカしたのと違い、卵黄の色彩と光沢そのまま、ねっとりとして、どうかすると、甘いザラメの舌ざわりが感じられた。

この後に福砂屋の話が続くのであるが、いまでもカステラの底の焦げた部分のザラメにこだわっているのは自分だけだろうか、ひとりで微笑んでいる。

ここに収められた諸編は、いずれも四、五頁のものであるが、そこには遙か遠くの時代の風韻とでもいべきものが、たくさん散りばめられている。このエッセイが書かれた昭和三十年代の日本は、高度経済成長の真っただ中、とくに昭和三十九年の東京オリンピック開催に向けて、首都は大きく変貌を遂げつつあった。

この本が江戸の情趣をあちこちに感じさせ、いま読んでも何ら違和感を持たないのは、文章表現が素晴らしいというだけではなく、そこに描かれているものが、現代にも伝わっているからだと思われる。このことは東京に限ったことではないが、すでに消えつつある風景や忘れ去られそうな習俗といったものを大切に守っていくこと、語り伝えていくことをわれわれは忘れてはいないか。

開館カレンダー

【開館時間】 9:00 ~ 20:00

● 9:00 ~ 17:00 ● 10:00 ~ 20:00 ● 9:00 ~ 21:00

1月

1 (火) 休館日
2 (水) 休館日
3 (木) 休館日
4 (金) 休館日
● 5 (土)
● 6 (日)
7 (月)
8 (火)
9 (水)
10 (木)
11 (金)
12 (土)
13 (日)
14 (月)
15 (火)
16 (水)
17 (木)
● 18 (金)
● 19 (土)
● 20 (日)
● 21 (月)
● 22 (火)
● 23 (水)
● 24 (木)
● 25 (金)
● 26 (土)
● 27 (日)
● 28 (月)
● 29 (火)
● 30 (水)
● 31 (木)

2月

1 (金) 休館日
2 (土) 休館日
3 (日) 休館日
● 4 (月)
● 5 (火)
● 6 (水)
● 7 (木)
● 8 (金)
9 (土)
10 (日)
11 (月)
12 (火) 休館日
13 (水) 休館日
14 (木) 休館日
● 15 (金)
16 (土)
● 17 (日)
● 18 (月)
● 19 (火)
● 20 (水)
● 21 (木)
● 22 (金)
● 23 (土)
● 24 (日)
● 25 (月)
● 26 (火)
● 27 (水)
● 28 (木)

3月

● 1 (金)
● 2 (土)
● 3 (日)
● 4 (月)
5 (火) 休館日
6 (水) 休館日
● 7 (木)
● 8 (金)
● 9 (土)
10 (日) 休館日
● 11 (月)
● 12 (火)
● 13 (水)
● 14 (木)
● 15 (金)
● 16 (土)
● 17 (日)
● 18 (月)
19 (火) 休館日
20 (水) 休館日
21 (木) 休館日
22 (金) 休館日
● 23 (土)
24 (日) 休館日
● 25 (月)
● 26 (火)
● 27 (水)
● 28 (木)
● 29 (金)
● 30 (土)
31 (日) 休館日

※予定が変更される場合があります。図書館ホームページも参照してください。

後記

新年明けましておめでとうございます。広報誌季刊『Lynzo』も、第10号を数えることができました。これもご愛読いただいたみなさんのおかげと感謝しています。この3年間のまとめとして、巻頭には「佛教大学図書館のこれから」を特集しました。本号をもって『Lynzo』は終刊させていただきます。ありがとうございました。



季刊『Lynzo』 vol.10

平成 25 年 1 月 1 日発行
 編集・発行 佛教大学図書館
 〒 603-8301 京都市北区紫野北花ノ坊町 96
 TEL 075-491-2141(代) FAX 075-491-9042
<http://www.bukkyo-u.ac.jp/facilities/library/>

Popup lib

ポップアップリブ

特集コーナー

1月

紀行文学を読む

紀行文学というジャンルがあることはあまり知られていません。西欧ではマルコ・ポーロの『東方見聞録』やイブン・バットゥータの『三大陸周遊記』から始まります。日本でも『土佐日記』『海道記』『東関紀行』『十六夜日記』など古典から現代にいたるまで、聞き覚えのある作品が数多くあります。今回の展示では現代作家の紀行文学なども含めた代表作品を展示貸出します。



2月

子規と漱石

明治の俳人、歌人である正岡子規と小説家である夏目漱石は、ともに慶応3年(1867)の生まれ、旧制第一高等中学校時代からの友人でもありました。子規は俳句や短歌を革新し、漱石は『吾輩は猫である』をはじめ、多くの小説を残しました。そして漱石には子規から手ほどきを受けた俳句や漢詩文などもあります。今回の展示では、現代も読み継がれている二人の作品を展示貸出します。



3月

日本の歴史と文化を考える名著選

わたしたちの暮らしている日本。21世紀になってすでに10年余りが経った今日、変わってしまったのは、自然環境だけではなく、人間の精神(こころ)や身体も、以前と同じではありません。その変化を感じることで、あらためて伝統の重要性を認識します。今回の展示では、様々なジャンルの図書をとおして、現在まで受け継がれてきた伝統や文化が、どのように形成されてきたのかを考えるため作品を展示貸出します。

